

2024 年度第 1 回愛媛県がん相談員研修ワーキング議事録

2024 年 6 月 6 日 (木)

13:30~16:00

司会：福島 書記：山本

施設名	参加者			
四国がんセンター	福島	大西	関木	篠原 (欠)
愛媛大学医学部附属病院	塩見			
愛媛県立中央病院	武田	濱田	松田	
市立宇和島病院	川中			
住友別子病院	和田			
済生会今治病院	松岡			
松山赤十字病院	山本			

1、今年度開催回数について

- ・予定通り 2 回開催する。
- ・第 1 回は本日の打合せで内容を決定する。第 2 回は情報支援研修地域版をあてる。

2、情報支援研修地域版について

開催日：11/9 (土) 13 時~17 時 で決定とする。

事前打ち合わせ候補日 2 時間程度 → 10/30 (水) で調整する。

オンライン開催、ホスト会場 四国がんセンター

募集定員 30 名、非拠点も可、他県からも可に同意

ファシリテーター (情報支援研修修了者)：愛媛県 8 名確保可で申請済

サブファシリ (できれば情報支援研修修了者)：愛媛県数名+香川・徳島・高知から 1~2 名依頼

3、第 1 回がん相談員研修会について

①日程について

候補日 9/28 (土)、9/8 (日)、9/15 (日)、9/29 (日)

- ・ワーキンググループ全メンバーが参加することは難しそうである。
- ・受講者としては、日曜日より土曜日の方が、参加しやすいと思われる。

→ 9/28 (土) 午後開催とする。

②開催方法について

集合/ハイブリッド/オンライン

- ・昨年度の集合開催研修がよかったという意見が多かった。

→ 集合開催で行う。

③開催場所について

- ・住友別子病院和田さんより、施設の会議室を利用できることのご提案あり。
- **住友別子病院 総合棟 多目的ホールで開催する。**

④募集定員、募集範囲について

- ・募集定員は昨年度 20 名とした。今年度も同様とする。
- ・募集範囲は、非拠点や他県からも参加可能とする。
- ・ファシリテーターは、1G4名（4～6名のグループ編成が推奨）とすると、5名必要と考える。必要に応じて、サブファシリテーターの参加も考慮する。

⑤プログラム、講師について

<第1回相談員研修の内容・時間について>

- ・昨年度行った QA 研修がよいのではないかと。繰り返し行うことが必要だと思う。
 - ・事前に愛媛大学医学部附属病院塩見さんより、研修時間を短縮して行ってはどうかご提案あり。高知県で行われた、事例検討を踏まえた2時間の研修内容についてご紹介いただいた。
 - ・高知県で行われた研修は、事例検討会にがん相談対応評価表を用いるという方法であった。評価表の使い方を中心とした講義 30 分、事例紹介と評価表を用いてニーズの絞り込みを中心に個人ワーク 45 分、評価内容のフィードバック 30 分、感想・振り返り 15 分の時間割で、研修時間は2時間であった。事例は、模擬事例や音声を録音したのではなく、相談員が対応した実際の事例の逐語録であった。事前課題はなかったが、国立がん研究センターの相談員研修ⅠⅡの受講についてアナウンスが必要と考える。
 - ・前年度は半日かけた QA 研修であったが、高知県の研修例から、半日かけなくてもよいかもしれない。事前課題もないほうが、受講者にとってはよい。
 - ・研修の目的をどこにもっていくか。実践を振り返ることで施設の課題が明らかとなるか。
 - ・評価表を用いることで、受講者だけでなく事例提供者および施設の学びにもなると思う。
- **研修内容はQAとする。研修時間は短縮する。**

<研修タイトル・目的について>

- ・QA 研修とすると、固い印象がある。タイトルに事例検討を入れるとよいと思う。
- ・相談の質向上が目的であり、評価表を使うことが目的ではない。事例を通して課題に気が付くことや、多角的視点でのアセスメント・対応方法について、学びを深められたらよいと思う。
- ・課題に気が付くためのツールとして評価表を用いるとよいことが伝わるとよいのではないかと。
- ・研修時間短縮のため、評価表すべての項目を埋めることは難しい。焦点を絞れるように、ファシリテートすることが必要と考える。
- ・事例はどのようなものがよいか。目的によって事例内容も変えた方がよい。
- ・目的の案…評価表を用いて相談対応を振り返る。

事例検討からより良い相談対応について考える。

評価表を用いて振り返り、今後の相談対応について示唆を得る。

・タイトルの案…事例検討会 評価表を用いることで見えてくる相談対応のあり方

→ タイトル「事例検討会 ～評価表を用いてより良い相談対応について考える～」とする。

目的は「評価表を用いて事例を振り返り、よりよい相談対応について考える」とする。

*学びとして、個々の気づきを深め、客観的視点、多角的視点を養うことができるとよい。

*より良い相談対応とは、相談者にとってのより良いである必要がある。

⑥事例について

・相談が少ない事例がよいか（希少がん・AYA 世代・ゲノムなど）

・よくある事例のなかで、評価表を用いることで課題に気が付くことができるとよいため、事例はどのようなものでもよいこととする。

→会場となる住友別子病院から事例提供していただく。

⑦役割分担

当日（司会進行、開会・閉会の挨拶に部会長）

準備（ちらし作成、申込フォーム作成、グループ・ファシリ分けリスト作成・・・）

・司会：四国がんセンター 関木

・講義：四国がんセンター 福島

・事例提供：住友別子病院の相談員

<タイムスケジュール案>

・13:00 オリエンテーション、開会あいさつ、講師・ファシリテーターの紹介（5分）

・13:05 講義（講義時間は今後検討）

事例紹介・個人ワーク（45分）

グループディスカッション（30分）

全体共有（15分）

→タイムスケジュールについては、次回打合せで再度話し合う。

⑧準備スケジュールについて

・事例内容の確認やファシリテーターの動きなど、引き続き打合せが必要である。

→次回 7/4（木）13:30～16:00 オンライン打合せ

4、その他連絡事項について

・四国ブロックで4年に1回研修を行うこととしている（2022年度計画に於いて）

前は2022年度に愛媛県が開催し、次回は2026年度に香川県が主体となって行う予定となっている。4年に1回の開催について、1年に1回や2年に1回の開催案が出ている。

→がん相談支援センターや相談員が対応することが増えているため、2年に1回の開催が他施設での取り組みも知る機会となり良いのではないか？の提案に異議なし。四国ブロック会へ意見を伝えることとする。